

ワークショップ参加者の皆様へ 【社会対応分野】

テーマ「パンデミック時の社会機能維持」の進め方について

はじめに

◇ **背景** 「新型インフルエンザ等対策特別措置法」（以下、「特措法」という。）が平成24年5月に公布されました。（施行は、平成25年春予定）

- 特措法に基づき、新型インフルエンザ発生時には、
 - ・ 医療対応関係では、都道府県知事は医療関係者に対して患者等への医療、予防接種の実施の要請など、
 - ・ 社会対応関係では、（緊急事態時に）都道府県知事は不要不急の外出の自粛等の要請、学校、興行場等の使用等制限等の要請などが行えるようになります。

- また、国の新型インフルエンザ対策行動計画によると、新型インフルエンザの
 - ・ 海外発生には、国は検疫や航空機・船舶の運航自粛要請などの水際対策の実施、
 - ・ 国内発生（国内感染期を含む）から、個人レベルでは手洗い・うがい・マスク着用・咳エチケットの徹底、社会レベルでは学校・保育施設等は臨時休業、外出や集会の自粛、職場での感染予防策や一部の事業の自粛などの社会対策を実施するほか、事業者では事業継続計画に応じた活動を維持し、医療関係者・社会機能維持者に先行して予防接種を行う、などとしています。

しかしながら、国内発生には、特措法に基づき必要な場合、外出の自粛や学校の使用制限などの要請がなされる一方、共働きの保護者は学校等休業で自宅に待機する児童・生徒等を監護するため事業所を欠勤することが予想される中で、欠勤者が増加する事業所において事業をどのように継続するか、児童・生徒等をどのように自宅待機させるか、などという具体的な対応を、平時である今、明らかにしておく必要があります。

◆ **本ワークショップは、**このような背景を念頭におき、テーマ「パンデミック時の社会機能維持」に基づきファシリテーターが提示する具体的な状況に関して、各グループ内で自分が思ったとおりのことを意見として出す活動となるものです。

このため、解決策を探るのではなく、出てきた意見の中には、解決策に繋がるような従来なかった創造的な意見もあります。そのような意見を特措法に基づき今後県や市町村が策定する行動計画のほか、具体的な対応の参考にするものです。

ワークショップでは、「質より量」に重きを置いた意見が重要ですので、できるだけ多くの意見を出していただくようお願いします。

＜ワークショップの実施にあたって＞

本ワークショップでは、次のルールにしたがって自由に「意見」（以下「アイデア」という。）を出してください。

1. 自由奔放に

突拍子もないアイデアは、参加者の頭の中や議論の方向性にいい刺激になります。固定観念から離れたアイデアの芽はすばらしいアイデアに育つことがあります。

2. 批判は厳禁

そのアイデアが芽を出し、実を結ぶことがあります。批判することで芽が出なくなることがあります。

3. 「質」より「量」

アイデアの「質」にこだわらず「量」を追求することで、飛躍的なアイデアが出てくる場合があります。

4. 後出しOK

他のアイデアから思いついたアイデアは歓迎です。アイデアとアイデアを融合させて、より良いアイデアを生み出すことができます。

＜ワークショップの事前準備＞

1. 参加者を6～7人でグルーピングしています。グループごとの参加者は、別紙「ワークショップ参加者一覧」により構成しています。
2. 参加者は、自分のグループの机（円卓）に着席してください。（参加者の席図は、別紙「ワークショップ参加者一覧」のとおりです。）
3. グループには、「どこでもシート」（60cm×80cm、白地。以下「シート」という。）、筆記用具（青、赤、黒のマーカー2本ずつ）、下書き用付箋紙、名札（所属、氏名を自分で記入してください。）を配布しています。
4. グループ内で進行者、記録者を決めてください。
 - ・ **進行者は**、グループ協議を取り仕切ったり、アイデアのキッカケ（問いかけ）を提供したりしますが、はじめにグループの皆さんに対してルール（4つの原則）のおさらいと、テーマの背景（P.1）とテーマ「パンデミック時の社会機能維持」の確認をします。進行者自身がアイデアを出してもかまいません。
 - ・ **記録者は**、グループの皆さんが出してくるアイデアをシートに書き出していったり（アイデアを出した本人がシートに書き出すことも有り）、似たようなアイデアをグルーピングします。記録者自身がアイデアを出してもかまいません。
5. 注意事項

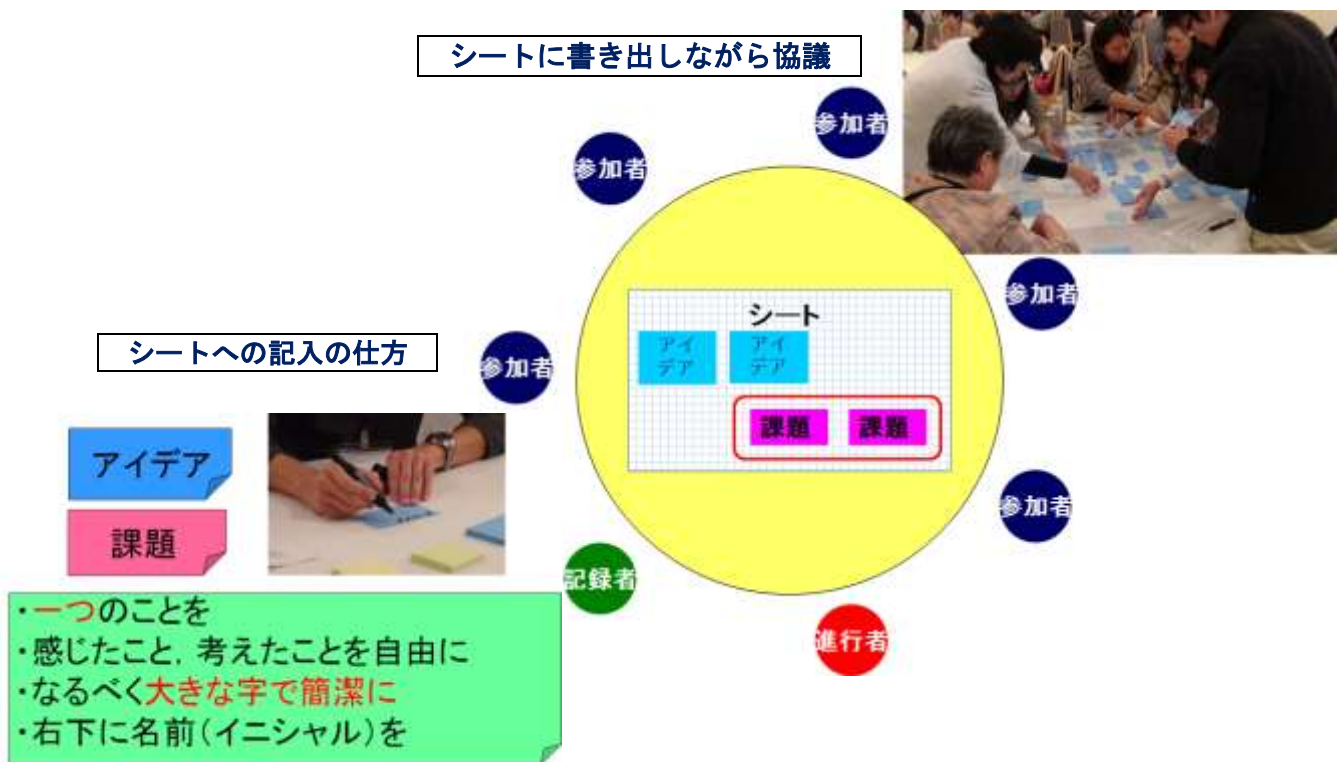
ファシリテーターが提示する状況（複数）の内容によって、それぞれの状況に対してアイデアを出し合うために与えられる時間は10分程度の短い場合もあれば、アイデアが尽きるまでのような長い場合もあります。その時間の範囲で、アイデアをどんどん出すこととなります。

<ワークショップの実施>

1. まず、ファシリテーターは、テーマ「パンデミック時の社会機能維持」に基づくワークショップのための導入講義を行います。
2. 導入講義の後、ファシリテーターは、テーマに基づく具体的な状況を参加者に提示します。併せて、アイデアを出すにあたっての制限時間を示します。
3. ファシリテーターが提示した状況に対する対応や解決策について、各グループは進行者のもとで、基調講演・導入講義の内容を参考にしながら、アイデアを出し合います。その後、次の諸点のようにします。

(※ファシリテーターが提示する状況は、複数になる場合があります。)

- ① アイデアは内容を簡単に紹介しながら、シートに書き出します。



【「シートへの書き込み」に関する注意点】

「アイデア」「課題」の色や使い方については、配布された色に応じて各グループで定めてください。

水色 ～対応や解決策に関するアイデア（過去に実際やってみて成果が上がったこと、教訓、工夫などもあり）

桃色 ～出てきたアイデアに関して改善が必要だと思った点、課題として上げられる点、気になることなど

- ・横書きで書く。
- ・1つの事柄を記入する。
- ・どんな気付きでもよいので、感じたこと、考えたこと等を自由な発想で書く。
- ・読みやすいペンを使い、なるべく大きな字で簡潔に書く。(1～2行で)
- ・右下に名前(イニシャルでよい)を記入する。

②類似したアイデアがあったら、前の人を書き込んだ場所のそばに書き込みます。
※できるだけ全員のアイデアが書き込まれるよう、繰り返します。

③書き込んだ内容を整理・分類します。

- ・内容のまとまりができるよう書き込み内容を移動
- ・書かれている内容により、書き込み内容をグループ化

シートの例

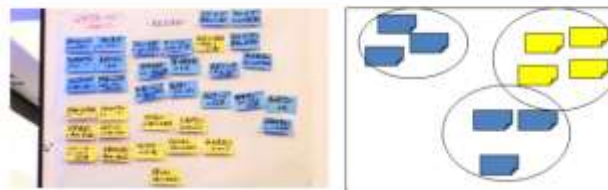
	長期の学校休業等で過程で はどう対応	外出自粛の中で単身高齢 者の生活維持にどう対応	行政・介護職員 の急減にどう対 応
アイ デア			
課 題			

④マーカー等でグループ化した内容を囲み、キーワードを書きます。

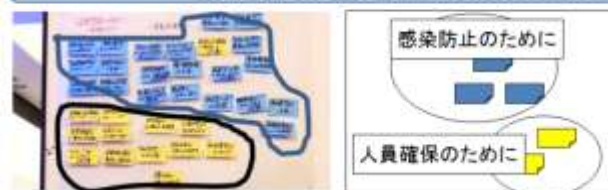
- ・線は、なるべく四角で太く
- ・キーワードは、内容がわかるように少し詳しく、太く

グループ化し、キーワード

同じアイデアを種類ごとにまとめ、「島」取りをする



それぞれの「島」にタイトルをつける



⑤書き込み内容をグループ化したもの同士の相関関係や因果関係を協議し、その関係性を矢印や文章などで表します。

【例】AとBは同類である (A=B)

AがBの原因になっている (A→B)

AとBは相互に関連し合っている (A⇔B)

⑥アイデアとそれに関する課題を明らかにして課題に対する改善案を協議します。

4. 提示した状況に対するアイデアと課題協議など一連の作業が終わりましたら、グループごとの発表の準備をします。

- ・グループの進行者を中心に、アイデアと改善協議の要点をまとめます。
- ・グループは発表者を決め、グループ内で協議した内容を簡潔にまとめます。

平成24年10月18日(木)
14:45～16:05
5階「芙蓉の間」

- ・グループは指定された場所にシートを貼ります。(又は持ちます。)
5. グループ発表は、ファシリテーターが進行し、発表内容に対する講評をします。
- ・各グループの発表者が、協議の内容を発表します。(グループ当たり〇分以内)

グループ協議の内容を発表



提示する状況が複数になる場合には、進捗状況と時間の都合により、ファシリテーターの指示のもと、複数回又はまとめて一回の発表となることがあります。

全体会において、ワークショップ各分野のまとめを発表することにしています。
社会対応分野のまとめ発表者は、〇〇としています。
まとめ発表者は、各グループの発表内容を把握し、改善策を含めて医療対応分野全体としてのまとめをしておきます。

最後に、各グループで協議した内容及び社会対応分野全体としてのまとめについては、県で取りまとめの上、県庁ホームページ「感染症対策ネットワークセミナー」
<http://www.pref.aomori.lg.jp/welfare/health/network-seminar2012.html> 等で提供することとしています。